

# 大阪不動産マーケティング協議会

# 第12回人権フィールドワーク

## 【12月5日(木)開催】

今回のフィールドワークでは、近江の被差別史を学ぶことを目的に、膳所、浜大津の視察の他、渡来人歴史館を訪問し、講義受講・館内見学を実施します。当日は、現地の歴史や人権に詳しいガイドの方に、ご案内いただきます。

### 人権フィールドワーク概要

#### ■集合日時・場所

2024年12月5日(木)10時00分

JR東海道本線「膳所」駅改札前

※17時00分頃にJR「大津」駅近くで解散(予定)となります。

#### ■行き先・行程

詳細は別紙を参照下さい。

※当日は、5km程度歩行しますので、動きやすい服装、運動靴でご参加下さい。

※雨天の際は、フィールドワークのルートを変更いたします。

#### ■ガイド

富楽 明美さん（京の歴史秘話ガイド）

#### ■定員

20名(先着順、事前申し込みが必要)

※大阪不動産マーケティング協議会会員限定。

※1社あたり2名まで

#### ■参加費

5,000円／1名（渡来人歴史館の入館料・ガイド代・昼食代込）

※参加費は当日会場にてお支払いください。領収書(兼聴講券)を用意いたします。

大阪不動産マーケティング協議会  
第12回人権フィールドワーク  
参加申込書(1社あたり2名まで)

※ご参加をご希望される方は、11月29日(金)までにFAXにてご返送下さい。

貴社名			
住所			
電話		FAX	
参加者 ご氏名		部署 役職名	
参加者 ご氏名		部署 役職名	

※申込いただいた方の個人情報は、大阪不動産マーケティング協議会で厳重に管理し、当協議会以外に漏れるなどの事故のない様に致します。なお、この参加申込書に記載された個人情報は、本事業の実施に関わる必要な事務処理の目的以外には使用しません。

## 「近江の被差別史を学ぶ」～膳所・浜大津を歩く

ガイド 富楽明美

2024年12月5日 (木)

- 10 : 00 JR膳所駅集合 京阪膳所駅～膳所本町へ 膳所を歩く…膳所城と城下に造られた役人村の歴史  
11 : 30 京阪錦駅～びわこ浜大津駅：11時35分着 11時48分発～大谷11時55分着  
12 : 00 「大谷茶屋」にて昼食  
13 : 00 大谷～JR大津駅を歩く…関蝉丸神社（芸能者への差別）宿場町における被差別者の役割  
15 : 00 渡来人歴史館にて講義受講・館内見学  
17 : 00 現地解散

近江の国の部落は、その成立した年代、造られた場所、支配した領主などによって、それぞれの部落の色合が違っています。近江の国は早くから開けてきたところですので、部落が発生した歴史も古いものがあります。

また、その造られた場所も、城下町のような所もあり、街道筋の所もあり、山間の谷間もあり、大きな社寺の近くにもあります。また部落を必要とした領主も、幕府あり、在国大名あり、他国大名あり、大社寺があつて、一様ではありませんでした。

したがって、その年代、場所、領主のちがいによって、自然に部落の色合に違いができました。部落を幾つかの種類に分けることが出来ることになりました。しかし、部落の色合は違っても、身分的に「エタ」として、領主から差別されたことは同じであります。

そういう訳で、近江の国では、部落の歴史を調べますと、大変バラエティ（種類変化）に富んでいます。ですから、近江の国の部落の歴史を勉強すると、だいたい日本全国の部落の歴史を勉強したことになります。

滋賀の部落 第三巻 (滋賀県部落史研究会発行) より抜粋

アジアの極東に位置する小さな島国の日本は、古代には朝鮮半島との交流によって先進大国であった中国の「文明・文化」を受け入れ、自分たちの国づくりに活用しました。そして、独立独歩の国づくりをするために地道な努力を重ねながら、平安以後の独自色の強い時代を迎えたと言われています。また、大航海時代においてもヨーロッパ列強の影響を最小限にとどめ、古代からの文化資産の社会的継承が続きました。

しかしながら、黒船の来航ショックから始まる明治時代には欧米の先進路線に強く刺激され「富国強兵政策」とも相まって、攻撃的な空気を良しとする社会環境をはびこらせる結果となりました。その後の二十世紀初頭には日清戦争や日露戦争に勝利して世界の五大国の一員として欧米に認められたことは広く知られている所です。

ところで、昭和時代には大国主義とともに自国第一主義を唱える私たちの国ニッポンが「大東亜共栄圏構想」のもとアジア支配に向って突き進んだ結果、国家の存亡にかかわる重大な危機を迎へ「どの様な結果」になったのか、皆さんはどこまでをご存知でしょうか。国の将来を見通すためにも、そして二度と過ちを繰り返さないためにも今一度「日本人二千年の歩み」を顧みて頂き、再考のための資料にして下さる様願っています。

渡来人歴史館 ホームページより

フィールドワークの行程

